

# Office for the Next Generation

## 次世代育成オフィス 活動報告

2016年度



### 次世代の理工系人材育成に貢献

企業の技術を次世代に伝えることで、科学技術分野の人材育成になります。

### 新たな CSR 活動

大学と連携して学校教育に貢献する新たな CSR 活動が展開できます。

### 参加社員の意識向上

自社の技術を通じて次世代と触れ合うことで、改めて仕事の意義・価値を捉えなおす機会になります。

### 青少年期に科学技術への興味関心を喚起

社会と科学技術の結びつきを知ること、理工系分野への興味関心を喚起します。

### 企業や大学を知る機会の提供

企業や大学が何をしているのかを理解することができます。

### 社会に根付いた知の習得

実際に使われている技術を知るとともに、関連する教材に触れることで、実践的な知を習得することができます。

# 産学連携による新しい科学技術教育

次世代育成オフィス(ONG)では、中学生・高校生を対象に、産業界と連携することで、工学・最先端技術の魅力および社会と科学技術の結びつきを伝えることができるワークショップを開催しています。また、中学生・高校生に最先端の科学技術研究の現場に触れてもらうために、駒場リサーチキャンパス公開に合わせて、「未来の科学者のための駒場リサーチキャンパス公開」を開催しています。

## 日本航空(JAL)×東京大学生産技術研究所

### 飛行機ワークショップ2016 ～飛行機の飛ぶしくみを学ぼう～

実施日|中学生クラス:2016年 9月24日(土)、9月25日(日)

高校生クラス:2016年10月29日(土)、10月30日(日)

主催|日本航空株式会社(JAL)、次世代育成オフィス(ONG)

講師|加藤 千幸 教授

今年度から新たに、日本航空株式会社(JAL)と次世代育成オフィス(ONG)が連携し、航空分野の研究や技術に関心を持ってもらうため、「飛行機ワークショップ2016～飛行機の飛ぶしくみを学ぼう～」を開催しました。本ワークショップは2日間の連続講座で、「中学生クラス」「高校生クラス」の順に開催され、計56名が参加しました。

1日目は、JAL羽田機体整備工場において、機体整備・点検作業の見学およびグループワークを行いました。2日目は、本所において、機械・生体系部門の加藤千幸教授を講師に迎えて「飛行機の飛ぶしくみ」について学びました。この際、4つのグループ(6～8名)に分かれて、機体を持ち上げる力(揚力)が大きくなる翼をデザインするコンペを行いました。さらに、「高校生クラス」では、揚力だけでなく、揚力と空気抵抗の比(揚抗比)が最大となる翼をデザインするコンペも行いました。

翼設計には、このワークショップのために作製した専用ソフトウェアを使用し、翼の周りの空気の流れをシミュレーションしたうえで、実際に模型を作製、風洞(風を流す専用の実験装置)を用いて作製した揚力と揚抗比を計測しました。

参加した中学生・高校生とともに、1日目、2日目を通じて積極的に参加している様子が印象的でした。



JAL整備士からの説明を真剣に聞く参加者



JAL整備士を交えてのグループワークの様子



加藤千幸先生による講義風景



風洞実験装置を用いた揚力の測定風景



#### 日本航空株式会社 広報部 阿部 和利 氏

JALが社会貢献の一環として行っている工場見学が、東京大学とのコラボにより、次世代を担う中高生の科学に対する興味を高め、航空分野の面白さを知っていただく好機になると考え、ワークショップを開催いたしました。参加者の笑顔や真剣な眼差しを見ていると、開催して本当に良かったと感じています。参加者の中からできれば航空業界を目指す人が出てくれたらと願っています。



#### 株式会社JALエンジニアリング 人材開発部 海老名 巖 氏

飛行機やその技術に興味を持てるよう、また翌日の講義につながるよう、普段は決して近寄れない本物の飛行機に直接触れていただく機会を設けました。巨大なのに細部まで精緻にできていることなどが実感できたと思います。また、国家資格を有し、安全運航を日々支えている若手整備士が説明したことで航空機整備という仕事にも親しみを持てただけだと思います。

## 東京メトロ×東京大学生産技術研究所

### 鉄道ワークショップ2016 ～車輪のしくみを考えよう～

実施日|中学生クラス:2016年7月26日(火)、7月27日(水)

高校生クラス:2016年8月 2日(火)、8月 3日(水)

主催|東京地下鉄株式会社(東京メトロ)、次世代育成オフィス(ONG)

教材提供|株式会社カトー

講師|中野 公彦 准教授、大島 まり 教授、石井 和之 教授

東京地下鉄株式会社(東京メトロ)と次世代育成オフィス(ONG)が連携し、中学生・高校生を対象とした「鉄道ワークショップ2016～車輪のしくみを考えよう～」を開催しました。平成25年より中学・高校の夏休みの期間を利用して開催され、今回で4回目となります。本ワークショップは2日間の連続講座となっており、「中学生クラス」「高校生クラス」に計50名が参加しました。

1日目は、東京メトロの中野車両基地内において、グループワークと地下鉄車両の整備、点検作業の見学を行いました。2日目は、本所において、車輪の曲がるしくみについて模型を用いた実験、講義を行うとともに、科学技術と社会とのつながりについての講義を行いました。

ワークショップ終了後には交流会が催され、参加者同士が鉄道に関する情報交換を行うなど、大変に盛り上がりました。



東京メトロ車両部員からの説明を真剣に聞く参加者



車輪模型を用いた実験の様子



石井和之先生による講義風景



大島まり先生による講義風景



東京地下鉄株式会社 広報部

佐藤 誠一郎 氏

ONGと当社が連携し、お互いが持っているリソースを補完しあいながら次世代育成に係る活動を行っていくことは、非常に高い効果を生み出し、特に鉄道ワークショップは、参加者が鉄道技術や科学技術の一端に触れることで、参加者に「将来を考えるきっかけ」を与えられると考えています。このような取り組みは、今後も継続していきたいです。

## 東京大学駒場リサーチキャンパス公開2016

### 未来の科学者のための駒場リサーチキャンパス公開

実施日 | 2016年6月3日(金)、6月4日(土)

協力 | 東京地下鉄株式会社(東京メトロ)、日本精工株式会社、日本アイ・ビー・エム株式会社(日本IBM)(6/4のみ出展)、SNG(Scientists for the Next Generation!)グループ



研究室で説明を受ける生徒たち

次世代育成オフィス(ONG)では、所内ボランティアグループであるSNG(Scientists for the Next Generation!)と協力し、「駒場リサーチキャンパス公開2016」に合わせて中学生・高校生のためのプログラム「未来の科学者のための駒場リサーチキャンパス公開」を実施、全国各地の中学、高校20校と個人の参加を併せて900名以上の中学生・高校生の参加がありました。

当日は、中学生・高校生対象の「団体見学」「個人見学」の2つの見学コースと「自由見学」を設置し、SNG等より募集した大学院生を中心とした引率員による誘導により研究室見学を実施しました。

また、中学生・高校生向け体験型イベントとして、地下アトリウムにて以下3企業による企業イベントを実施しました。

東京地下鉄株式会社(東京メトロ)「模型を使って車輪のしくみを調べてみよう!」、日本精工株式会社「ベアリングってなんだろう?!」、日本アイ・ビー・エム株式会社「モノのインターネットの(IoT)の世界をのぞいてみよう」の各ブースが設置され、企業の方から、直接説明を聞いたり、デモを体験したりすることが可能なこともあり、当日は中学生・高校生を中心に2日間で約1,000名もの参加者を迎え、多彩な科学の知に触れる好機となりました。



地下アトリウムの東京メトロブース



地下アトリウムの日本精工ブース



地下アトリウムの日本IBMブース



#### 日本精工株式会社 技術開発本部技術企画室 竹内 克典 氏

ベアリングは、家電製品や自動車などの身近な機械に使われている部品です。ベアリングのことをほとんど知らない来場者も多くいらっしゃいましたが、ベアリングの組み立て体験や転がり/すべり体験は大変好評でした。皆さんに、世の中の様々な場所で役立っているベアリングを知っていただく良い機会になったと思います。



#### 日本アイ・ビー・エム株式会社 研究開発 沼田 祈史 氏

お子様からシニアの方まで興味をもっていただけるよう、声で動かすロボットやWatsonの顔認識、センサーデータとTwitterの連携など様々なデモをご用意し、コグニティブやIoTの世界を体験していただきました。これからITの世界がますます面白くなることを実感いただけたいと思います。

## ベアリングキットによる授業

株式会社ジェイテクトより寄贈いただいたベアリングと書籍「ベアリング 基本と仕組み」を用いて、ベアリングについての講義を行っています。また、「鉄道ワークショップ2016」の講義でも実際にベアリングに触れることにより、参加者の理解が深まりました。



#### 株式会社ジェイテクト 研究開発本部 武田 稔 氏

子供の頃に、モノを分解したり組み立てて、どのような構造になっているか?遊びながら学ぶ機会が少なくなっています。講義では、子供達が遊ぶ玩具(回転するコマ)を取り上げながら、転がり軸受の役割や構造についてご紹介をさせていただきます。産業の米といわれる「転がり軸受」を身近に感じてもらえるとうり難しいです。

# 教材開発

次世代育成オフィス(ONG)では、産学連携ONG授業、ワークショップ等の科学技術教育活動と連動して教材開発を行い、さまざまな次世代育成に取り組んでいます。

## 映像教材

企業との連携によるワークショップや産学連携ONG授業をもとに、各コンテンツ5分程度で授業の内容が理解できるDVDを制作・配布しています。



## Web教材

制作した映像教材をより多くの方にご覧いただくため、次世代育成オフィス(ONG)のWebサイトでも公開。どなたでもいつでも最先端技術の魅力を伝える授業がご覧いただけます。

### 映像・Web教材一覧

制作	タイトル	共催・協賛・協力企業
2016年度版	飛行機の飛ぶしくみを学ぼう	日本航空(株)(JAL)
2015年度版	最先端光学機器のしくみと、それを支える物理と数学	(株)ニコン
2015年度版	電車モータのしくみを学ぼう	東京地下鉄(株)(東京メトロ)、(株)カトー、(株)アーテック
2014年度版	水と緑と持続可能な社会の構築	サントリーグローバルイノベーションセンター(株)
2014年度版	鉄道電気のしくみを学ぼう	東京地下鉄(株)(東京メトロ)、(株)カトー
2013年度版	光を操るマイクロマシン	santec(株)
2012年度版	持続可能社会とものづくり	日本鉄鋼協会・日本鉄鋼連盟、JFE21世紀財団、日立金属(株)
2011年度版	車両の走行メカニズム	東京地下鉄(株)(東京メトロ)、(株)ジェイテクト

### 協賛事例紹介「日立金属株式会社」

2012年度版「持続可能社会とものづくり」の「4. 人と鉄との出会い」では、和銅やたたらについて、ホームページを通じてご紹介いただいています。

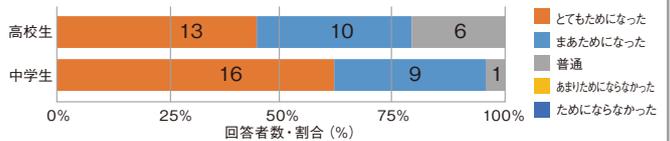
## ワークショップアンケート結果

### 飛行機ワークショップ

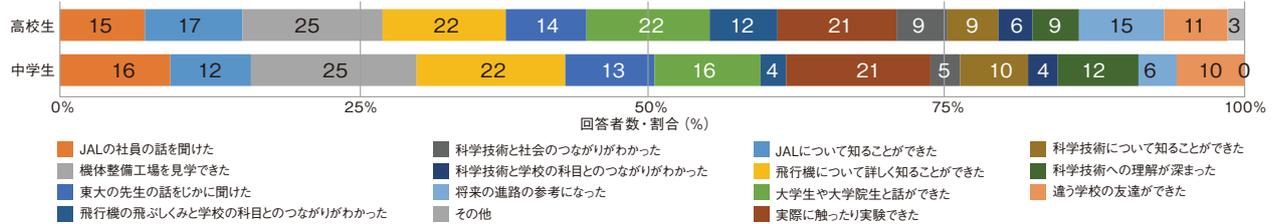
#### Q.機体整備工場見学の解説はわかりやすかったか



#### Q.講義はためになったか



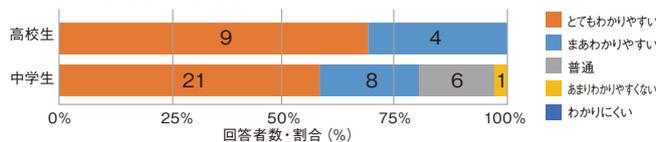
#### Q.参加して良かった点



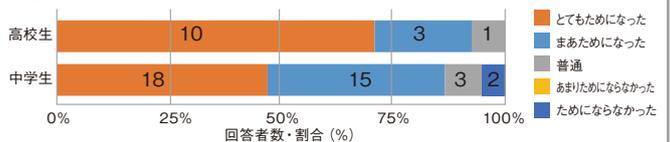
参加者感想：(中学生)解説が本当に分かりやすかったです。もっと見学して、細かく解説していただき、知識を増やしていきたいと思いました。また参加したいです。  
(高校生)自分たちでパソコン操作をすることで、翼の形をベースに揚力などを計算する点が面白かった。

### 鉄道ワークショップ

#### Q.車両基地見学の解説はわかりやすかったか



#### Q.講義はためになったか



#### Q.参加して良かった点



参加者感想：(中学生)講義だけでなく実験も混ぜてくれたのでより分かりやすかった。  
(高校生)工場見学は、整備作業で忙しいにも関わらず、丁寧な対応で迎えてくれて、大変感謝しています。

# 貸出教材

中学・高校の先生方に理科の授業でご利用いただける教材を無料で貸し出しています。

## 貸出教材の申込方法

次世代育成オフィス(ONG)ホームページ内「お問合せ」より「申込書」をダウンロードしていただき、必要事項を記入のうえ、電子メールでお申込みください。

## 実験貸出教材

### 車輪のしくみを調べてみよう



鉄道車輪がどのようにカーブを曲がるのか、実験を通して「慣性」や「力」といった物理について学べるとともに、科学技術と社会とのつながりを学習できる教材です。すぐに使えるワークシートや、教材を使った授業案もご用意しています。

#### 使用イベント

- ・鉄道ワークショップ2016「車輪のしくみを考えよう」
- ・鉄道ワークショップ2013「車輪のしくみを見てみよう」
- ・高崎市立高崎経済大学附属高等学校 出張授業 (2014・2013年度)

#### 教材

- ・車輪の形：円錐 (60度・45度)、円筒、半円の4種類 (自由に付け替え可能)
- ・輪軸固定方法：マグネット
- ・レール：組み立て式 (パーツは5つ)

#### 参考資料

生徒用ワークシート、先生用マニュアル、授業案

#### カリキュラム

1コマの授業で完結する内容

#### 学習単元

- 高等学校 物理基礎
- ・運動の表し方 (車輪の運動)
- ・様々な力とその働き (車両に作用する力、平行2輪車、摩擦力)

### 金属・材料を調べてみよう



生徒たちに「いろいろな金属(元素)に触れてもらうこと」「感覚と物性値の差を実感して科学的概念を意識化してもらうこと」を目指して開発した教材です。中学・高校の先生方に理科の授業中に利用していただいています。

#### 使用校

- ・第53回千葉県教育研究会理科教育部会研究発表大会 (松戸市立小金中学校)
- ・菊陽町立菊陽中学校
- ・さいたま市立土合中学校

#### 材料

- 演示用：  
10cm棒 17種 (銀、アルミニウム、カーボン、銅、鉄、マグネシウム、モリブデン、ニッケル、スズ、ステンレス2種、チタン、タングステン、亜鉛、ジュラルミン、真鍮、テフロン)
- 10cm板 13種 (銀、アルミニウム、カーボン、銅、鉄、モリブデン、ニッケル、スズ、ステンレス、チタン、タングステン、亜鉛、テフロン)
- 生徒実習用：  
5cm、10cm、20cm棒 各4種 (アルミニウム、銅、鉄、チタン)
- 50cm棒 7種 (アルミニウム、銅、鉄、チタン、ガラス、アクリル、木)

#### 実験道具

デジタルスケール、磁石、電卓

#### 参考資料

生徒用ワークシート、先生用マニュアル、資料冊子、授業案

#### カリキュラム

1コマの授業で完結する内容

#### 学習単元

- 中学校 理科1学年・2学年
- ・身の回りの物質とその性質 (密度)
- ・原子・分子 (元素記号)
- ・電気とそのエネルギー (電流による発熱量)
- 小学校 理科
- ・磁石にひきつけられる物
- ・温まり方の違い

# 依頼出張授業

中学・高校からの依頼を受け、本所の教員が最先端の研究について講義します。



## 埼玉県立大宮高等学校

### <地球水循環と気候>

地球水循環と気候について、森林伐採と雨の関係、30億年前から現在までの環境気候変動、同位体を使った雨の出身地解析、最新技術を用いた将来予測などのテーマで講義がありました。先生がグラフを見せて生徒に問いを投げかけ、答えさせるなど、双方向的で白熱した講義となりました。質問時間ではグラフを読み取り、大学生顔負けの鋭い質問が飛び交う場面も多く見受けられました。グラフの正確な読み取りと考察や事前知識など、高校生とは思えないハイレベルな生徒たちでした。講義の最後には、数学を学ぶ意味、大学でなぜ学ぶのか、今何をすべきか、といった内容の話があり、生徒たちは真剣に聞き入っていました。

実施日|2016年7月11日(月)  
講師|芳村 圭 准教授



## 八千代松陰学園 八千代松陰高等学校

### <ICT時代の災害対応の最前線>

防災と災害対応に関する授業が行われました。はじめに、防災の基本に関する話の後、発展途上の災害とそれに対する研究的なアプローチ方法に関する話が映像と共に紹介されました。講義後半は、今後の災害対応に関する内容にも及び、「災害対応は発災後の対応よりも発災前の対応が重要である」などの説明に新しい気づきを与えられたようで、有意義な時間となりました。講義の中でも自分たちの生活に関わる内容、例えば、家具の補強に関する映像などについては、真剣にメモをとりながら、自分たちに今何ができるのかを考えている様子が印象的でした。防災が理学・工学の枠組みを超えた、文系などの様々な学問から成り立っていることが特に興味深かったようです。

実施日|2016年7月12日(火)  
講師|沼田 宗純 講師



## 東京都市大学附属中学校・高等学校

### <エネルギーってなんだろう? -省エネルギー技術の研究動向->

甘蔗先生より、エネルギーの質と有効活用をテーマに講義がありました。「エネルギー保存則」と「エネルギー消費」といった矛盾した概念、エネルギーは質の高い状態から低い状態に変化しているだけであること、また、本来は周囲環境に捨て、無駄にしていたエネルギーを、質を高め再利用することで省エネに寄与できることなどについて説明がありました。熱力学やエネルギーの質という難しい内容を、エントロピーやエクセルギーといった難しい概念を用いず、「カレーの消費」という身近な例や、おもちゃを用いて説明したことで、生徒たちには理解しやすかったようでした。

実施日|2016年7月16日(土)  
講師|甘蔗 寂樹 特任准教授



## 田園調布学園中等部・高等部

### <デジカメの仕組みを知る:最先端技術の玉手箱>

中学生・高校生に工学を知ってもらうための一例として、志村先生がデジカメ技術の紹介を行いました。まずは生徒が各自持参したデジカメで写真を撮り、志村先生がそれらの写真をプロジェクターに写しながら、画素とデジタル画像についての講義を行いました。また、2進数や情報量の概念を用いた記録の仕組み、レンズによる結像、撮像素子の仕組みを説明し、最後には量子力学や物理と産業の関わりについても触れました。画素とデジタル画像の説明では、生徒が自分で撮った写真を教材として使ったことで楽しさが加わり、笑顔で講義に臨む姿が見受けられました。デジカメという身近な製品に含まれる技術を通して、物理学、工学が社会のさまざまな場面で利用されていることについて理解が深まったようです。

実施日|2016年10月5日(水)  
講師|志村 努 教授



## 東京都立墨田川高等学校

### <流動層とその利用>

まず、高校と大学の授業方法の違いなど、将来の大学生活をイメージさせるような話から始まりました。そして、化学工学とは何なのか、実世界にどのように還元されているかなど、研究分野に関する説明に続き、メインテーマである流動層について、流動層とは何なのか、身の回りの製品においてどのように利用されているかなど、流動層の基礎からの講義が行われました。流動層は高校生にとっては耳慣れない概念であるため、少し難しい内容でしたが、映像やイラストによる説明のほか、石炭で沸かす風呂の例など、身の回りにどのように活用されているか、具体的に説明することにより、よりイメージしやすくなったようです。

実施日|2016年10月28日(金)  
講師|石東 真典 特任研究員



## 埼玉県立浦和第一女子高等学校

### <ナノと深海の世界>

西田先生より、深海という特殊な環境でのナノスケールの観測技術についての授業が行われました。まず、原子間力顕微鏡の原理を理解するため、他の顕微鏡との違いや原子間力顕微鏡ならではの特徴について説明がありました。その後、カンチレバーモデルを使った実習で、原子間力顕微鏡の動作原理の理解を深めました。最後に西田先生専門の、深海におけるナノオーダーの顕微鏡の実験風景について、写真を見せながら説明がありました。高校1年生は物理が未履修のため、数式等の理解が難しかったようですが、生徒が主体的に考え、実際に手を動かし現象を理解しようとする積極的な姿勢が見られました。

実施日|2016年11月19日(土)  
講師|西田 周平 特任講師



## 北海道教育委員会「ハイレベル学習セミナー」

### <美肌の力学 -工学と美容の妖しい関係->

授業に先立ち、東京大学の求める人材や学部の特徴、入学試験制度などの紹介がありました。肌にシワができる仕組みを、力学的に考察する授業が行われました。シワ発生のメカニズムについて、缶コーヒーの缶がつぶれる様子を例に、座屈をきっかけとしたシワ形成の仮説と皮膚構造の加齢をモデル化したシミュレーションによる検討結果の説明がありました。授業の後半には、固体力学の基礎について数式を用いた解説がありました。高校の学習が最先端研究に活用されていることに気付くことができ、学習意欲を一層高められる有意義な時間となったようです。

実施日|2017年1月7日(土)  
講師|吉川 暢宏 教授

## 参加者の感想

- ・原子間力を振幅で表すことに意外なつながりを感じた。振幅・振動数のグラフは数学に直結するので、科学だけではなく数学の力も伸ばしていきたい。(高校生・女子)
- ・物理はあまり目に見えない世界なので、もともと興味があったのですが、今回の授業を受けて、目に見えるようになってきていることが分かり、より興味が深まりました。(高校生・女子)
- ・自分の興味のある内容も含まれており、とても面白かったです。内容は難しかったのですが、難しいからこそ興味を惹かれました。また、大学院生の方々とても優しく教えてくださりとても嬉しかったです。(高校生・女子)
- ・今、私たちに必要なことは高校で習っていることを大切に、将来何になりたいのか、自分がなりたい職業をよく調べ、それに向けて勉強することが大切なのだと分かりました。(高校生・女子)
- ・最後の話が、最初の疑問とつながったときは、何とも言えない嬉しい気持ちになりました。こういう気持ちを多くの努力や時間を重ねて何千倍にも膨らませ、それを感じているのだらうと思うと、研究者という仕事は楽しそうだと思いました。(高校生・男子)
- ・なぜ「人口が増えていく」というところから授業を始めたのか最初は分かりませんでしたが、全体を聞き終えてみて、それが災害のリスクを高めることにつながっていると学び、謎が解けました。また、そのリスクを技術によって軽減できることも分かり、「文系」や「理系」といった区別をせず、体系的に物事を見ることの大切さが分かりました。(高校生・男子)

# 依頼授業:研究室見学および講義

中学・高校からの依頼を受け、本所の教員が所内で最先端の研究について講義します。



## 広尾学園中学校

### <エネルギーってなんだろう? -省エネルギー技術の研究動向->

実施日 | 2016年7月15日(金)  
講師 | 苜蔗 寂樹 特任准教授

エネルギーとは何か、エネルギー消費とは何か、などの基礎知識を始め、省エネルギー化技術の解説や産業界への応用例など、最新の研究内容を紹介する講義を行いました。映像やイラストを多く使って説明することにより、生徒たちも飽きずに聞くことができたようでした。

講義に加え、実験室でライデンフロスト現象を観察したり、キャンパス内の住居型研究施設(COMMAハウス)を見学したりしたことにより、最新の省エネルギー化設備の仕組みや働きについて、より良い理解が得られたようです。

難しい研究内容も、実際の生活でそれらがどう活かされているかを説明することで興味を持ちやすくなったようです。



## 群馬県立前橋女子高等学校

### <エネルギーと流体力学>

実施日 | 2016年11月11日(金)  
講師 | 長谷川 洋介 准教授

エネルギーと流体力学について、身近なものに例えながら講義が進められました。エネルギーとは何なのか、ということから入り、簡単な例を交えて、エネルギー保存とは何なのか、なぜ保存されるはずのエネルギーが枯渇すると言われているのか、などについて説明がありました。

また、長谷川研究室で行っている研究内容と関連させながら、車や飛行機などにおいて、流体との摩擦がどれだけエネルギー消費に関わるかを説明しました。実験室見学では、流体の代表的な現象であるカルマン渦を可視化して見せました。

物理の基礎の話では頷いている生徒が多くみられ、学習したことの復習もできたようです。講義後の研究室見学でも、講義の内容を踏まえた質問があり、研究や本所について関心があるようでした。



## 福井県立敦賀高等学校

### <エネルギーってなんだろう? -省エネルギー技術の研究動向->

実施日 | 2016年12月8日(木)  
講師 | 苜蔗 寂樹 特任准教授

エネルギーとは何か、エネルギー消費とは何かについて授業が行われました。基本的な概念に加え、省エネルギー化技術の解説とともに産業界への応用例など、最新の研究内容に関して説明がありました。実験室見学では、実際の実験装置を用いてライデンフロスト現象を観察しました。

映像やイラストを使っての説明により、生徒たちは興味を持って聞けたようです。生徒の中にはエネルギーに興味のある者もいたようで、実際の研究における課題など、踏み込んだ内容の質問が寄せられました。

## 参加者の感想

- ・身近なものの仕組みや理由の設問があり、自分の疑問が解消したことで面白いと感じられることが多かったです。(中学生・男子)
- ・東大という少し堅苦しいイメージでしたが、実際に先生や大学生の方に合わせてみて、イメージが変わりました。(高校生・女子)
- ・個人の作業よりも、連帯で作業すること、またコミュニケーションをとることが大切なことが分かりました。(高校生・女子)

## 依頼出張授業・依頼授業の申込方法

次世代育成オフィス(ONG)ホームページ内「お問合せ」より「申込書」をダウンロードしていただき、必要事項を記入のうえ、電子メールでお申込みください。

## その他連携活動と情報発信

研究会	第9回・第10回次世代育成のための教育・アウトリーチ活動特別研究会への協力
発表会	岩手県立釜石高等学校理科SSH課題研究「中間発表会」「最終発表会」に参加
イベント	「女子中高生のみなさん 最先端の工学研究に触れてみよう! 2016」の開催
研究会	日産財団 わくわくサイエンスナビへの協力

新しい科学技術教育を試みたい教育関係者、科学技術教育を通してCSRに取り組みたい企業の方々は、次世代育成オフィス(ONG)にご相談ください。

次世代育成オフィス



Office for the Next Generation

東京大学生産技術研究所  
次世代育成オフィス(ONG)事務局 (総務課研究総務チーム)  
TEL:03-5452-6026 FAX:03-5452-6071  
E-mail:ong@iis.u-tokyo.ac.jp  
http://ong.iis.u-tokyo.ac.jp/

次世代育成オフィス(ONG)のホームページがPC・携帯端末対応の仕様にリニューアルしました。

